

# 平成22（2010）年度 事業計画

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(平成22年3月17日 評議員会同意、平成22年3月24日 理事会議決)

# 平成 22(2010)年度 事業計画

## 2010 年度 事業目標

### 1. 「現場の自然保護」をすすめる

グローバルな視野で活動する自然保護 NGO として、地域の人たちと共に、現場の問題を解決し、地域づくりと一体となった生物多様性保全をすすめる

- ・赤谷プロジェクトで生物多様性保全型の森林計画を策定する
- ・脆弱な保護地域（尾瀬、小笠原）で歩道・オーバーユースの問題を解決する
- ・辺野古大浦湾・泡瀬干潟の埋立計画を中止させる
- ・綾プロジェクトで、大隈地域・屋久島など南九州の照葉樹林保全の機運を高める
- ・中池見、穂谷など里やまモニタリングサイトの保全を一つ一つ確実なものにする

### 2. 自然保護活動への直接的な参加者を増やす

すべての事業において、自然保護活動のプロセスを分かりやすく見せ、共感をもって参加してもらう機会をつくる

- ・自然観察指導員講習会を 11 回開催して、指導員 550 人を増やす
- ・「国際生物多様性記念全国一斉観察会」「自然しらべ 2010」で、身近な自然観察会への参加者を増やす
- ・里やまのモニタリングサイトや綾の照葉樹林プロジェクトで、市町村や林野庁と協力した順応的管理の事例をつくる
- ・照葉樹林保全研究で、市民参加型の照葉樹林のモニタリング調査手法を確立し、多くの市民が参加する調査の枠組みをつくる
- ・自然保護の現場をめぐるスタディツアーを 4 カ所で開催し、生物多様性と保全上の問題を参加者と地域 NGO で共有し、解決に向けた提案を考え発信する
- ・現場での取り組みから導いた生物多様性保全に係る科学的知見や自然保護政策への提言を会報・ウェブサイト・各種メディア等を通じて速やかに発信し、活動の認知度をあげる

### 3. 自然保護における NACS-J と会員の役割・関係をわかりやすく示し

#### 支援者を 2,000 人増やす

自然保護における NACS-J と会員の役割・関係について、今の時代の視点で見直し、分かりやすい会員募集、支援者増をはかる

- ・会報企画ミニイベントで、会報の記事を一度の掲載だけで終わらせずに一般への普及、入会勧誘につなげる
- ・CBD・COP10 の機会も活用し、主催・後援行事（自然観察指導員講習会、市民調査全国大会、照葉樹林シンポジウム、スタディツアー）などのあらゆる機会での入会・寄付案内パンフレットの配布、ウェブサイト等で、活動や会員となって支援することの意義を分かりやすく伝え、広く支援を募る

以上

## 保護プロジェクト事業

2010年度の目標	
流域の視点で生物多様性を保全する重要性を社会的な認識としていくために	
①先駆的モデルとして赤谷プロジェクトで生物多様性保全型の森林計画を樹立する。	
②脆弱な保護地域で生物多様な情報をもとに歩道・オーバーユースの問題を解決していく。	
③辺野古・泡瀬の埋立計画をこれまでの活動成果をもとに完全中止にする。	
④スタディツアーを通じて支持層を拡大し、流域の恵みと管理について発信していく。	
⑤各プロジェクト・事業を通じてオピニオンリーダーになっていく。	

事業名	事業の目標	事業概要
「現場の保護問題」の科学的解決	埋立計画は中止、地域でモニタリング活動、持続的な利用の検討が始まる状況を目指す	(1) <b>辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動</b> —海の生物多様性を守る 辺野古・大浦湾や泡瀬干潟が生物多様性重要地域であることを現場の活動をもとに社会に示し続ける。・大浦湾・アオサンゴ群集モニタリング調査(年2回・地元NGO 合同調査) ・普天間飛行場移設・辺野古沖計画の日米政府協議のモニターと埋立回避のアピール ・泡瀬干潟海藻場調査の継続、保全・提言活動
	保護問題の解決行動を組織的に対応する	(2) <b>地域の自然保護問題の解決</b> —保護活動の地域支援 ①地域NGO との連携・現地視察等により問題点を明確にする、②関係主体・メディアに意見を発信する、③問題解決の活動をつくる。 特に、重要モニター事業・重要地域の種の保存と場の管理をめぐる施策の進行・山岳地域での適正な利用・管理や開発計画・風力発電の問題抽出と適正な立地選択・アセス手続きへの提言 【出版・編集】・改訂版「生態学からみた野生生物の保護と法律 生物多様性の時代」の編集・発行(7月) 【保護P部運営】・保護P事業WGの開催・各種依頼、後援・後援・講師等の対応
森林の生態系管理	地域住民・サポーター・NACS-Jの主体的活動と生活基盤が連動した環境管理モデルを実現する	(3) <b>赤谷プロジェクト</b> —森林の生態系管理モデル確立 生物多様性と社会の持続性のため、モニタリングと環境修復を続けるとともに、第1期協定最終年度にふさわしい事業総括を行い、第2期協定期間の事業ビジョンを構築する。 ①総合事務局業務／企画運営会議、調整会議による協働関係の組織化 ・「赤谷の日」開催による関係者(協働3者+サポーター) 相互研修 ・総合ホームページの作成・定期更新 ・サポーター・支援者・支持者の獲得 ・赤谷エリアの国有林「地域管理経営計画」「施業実施計画」策定過程への関与 ②生物多様性復元と持続的・地域社会づくりの手法開発(受託研究+自主)／ ・自然環境モニタリング会議とそれに連なるWGの運営を通じた、科学的根拠に基づいた総合的な生物多様性復元手法の確立。 ・地域づくりWG・環境教育WG・地域協議会活動を通じた、持続的・地域社会づくりの手法検討 ③赤谷型・生態系管理プロジェクトの総括・展望の検討(自主)
保護地域の問題解決	世界遺産登録を機に、島嶼生態系の保全管理の考えを発信する	(4) <b>小笠原プロジェクト</b> —島の生態系の保全管理への提言 世界遺産登録地にふさわしい島嶼生態系の保護管理の仕組みを検討し、発信する。 ・保護地域の保全管理のモニター・フォロー ・南島モニタリング調査の継続と発展(受託、応札予定) ・母島GET(ジオエコタイプ) 区分解析と提言(トヨタ助成金)
	登山道の一部迂回の必要性が関係者と共有できている状況を目指す	(5) <b>尾瀬プロジェクト</b> —山岳域保護地域の保全管理への提言 脆弱な環境下の登山道のあり方を明らかにし国立公園の保全管理のモデルを構築できるよう、現地調査に積極的に関与する。 ・尾瀬の保全管理のモニター・フォロー ・至仏山登山道学術調査のコーディネート業務(受託、応札予定)、登山道関連シンポジウムへの関与・協力
河川・流域スタディツアー	地域NGO との協働で新たな支持層を開拓、河川・流域管理のあり方を発信する。	(6) <b>生物多様性の道「もり・かわ・うみ・いきものバンザイ! ツアー」</b> 〜生態系サービスと流域管理〜 NACS-J が関わってきた現場を中心に、自然とともにあるくらしから「自然の恵み(生態系サービス)」を実感するスタディツアー。地域との交流やミニシンポ等を通じ、流域管理のあり方を発想・発信する。7月川辺川・八代海、8月吉野川、9月サンル川、11月赤谷
COP10 オピニオン発信	日本を代表するNGOとしてオピニオンリーダーを目指す	(7) <b>ポスト2010年目標とCOP10重要決議への意見表明</b> CBD/COP10に向け、NACS-Jの意見・主張を発信する。 ・国内外の生物多様性保全に関わる目標・決議の情報整理、生物多様性ポジションペーパーWGの運営、NACS-J 意見のまとめ・発信。
ライブラリー管理	登録作業を維持、情報が活用される	(8) <b>ライブラリー管理</b> 一般図書・報告書・ニュースレター等を整理・登録管理・閲覧サービス

## 保全研究事業

2010年度の目標
①市民調査などで蓄積してきたオリジナルデータを活用し、特に里やまと照葉樹林について現場主義での自然保護活動を進める。
②市民参加型調査の積極的な展開により、調査協力者 2000 人を目指す。
③COP10 を効果的に自然保護につなげるため、全国の自然保護 NPO の COP10 への参加登録 750 団体を目指す。
④事業紹介パンフ配布やイベントでの会員獲得の呼びかけ実施により、個人会員 50 人、団体会員 10 団体の獲得を目指す。

事業名	事業の目標	事業概要
里やま保全研究	里やまの生物多様性情報の更なる収集と解析・評価を行い、現場主義の自然保護活動を進める	<p>&lt;小委員会&gt;・保全方策の検討開始</p> <p>&lt;生きもの情報館&gt;・過去の自然観察情報登録・データの効果的な活用方法検討・CSR 企画対応(外来種全国調査)</p> <p>&lt;資金獲得&gt;・協賛の獲得・パンフレットを使った参加者募集と寄付集め</p>
	里やまの生物多様性健康診断のデータ蓄積・発信方法を検討、保全への活用準備を整える	<p>&lt;モニタリングサイト 1000・里地調査&gt;</p> <p>・調査継続のための調査報告会実施・生物多様性健康診断のための指標や評価結果の表現方法の確立・地方自治体等へのデータ提供先・方法の特定</p>
市民活動研究	市民調査を行う団体や関係する行政との情報交換やモデル事例の発信から、各地の活動が一步進む	<p>&lt;市民調査全国大会&gt;</p> <p>市民調査全国大会の開催・市民団体、行政、企業、研究者への発表・参加の呼びかけ・発表者レポートの編集・報告書の企画・作成</p>
SISPA (戦略的保全地域情報システム)	大隅をモデルに緊急性の高い照葉樹林の保全に SISPA を活用する	<p>・鹿児島県大隅照葉樹林の現状調査・大隅地域における照葉樹林保全のための検討体制確立・H21 年度大隅調査・保全活動の SISPA への登録・普及・屋久島の調査結果まとめ、SISPAweb サイトでの普及</p>
照葉樹林保全研究	復元検討の体制と市民参加型調査活動を通して、綾プロへの関心を高める	<p>&lt;綾プロジェクト&gt;</p> <p>・調査研究 WG の運営・市民参加型林床植生調査の実施・照葉樹林サミット開催および COP10 へのインプット・里山里海 SGA レポートの部分単行本化(綾)</p>
国際研究	CBD などの国際的な観点から日本の課題をまとめる	<p>・国際会議参加による最新情報の更新と維持</p> <p>・COP10 決議の翻訳校正と分析</p>
	IUCN 加盟団体が COP10 に積極的に参加、その成果が将来の体制・活動計画に活かされている	<p>・IUCN 日本委員会の日常業務(問い合わせ、会議運営等)・COP10 特別事業への協力、実施・ポスト2010年目標実施体制検討、CBD 主要テーマ(保護地域等)の将来行動計画検討、普及啓発キャンペーン(折り紙プロジェクト(仮称))など</p>
	ラムネット・WCPA に参画し、情報収集とともに、両枠組みを現場の保全に活用する	<p>&lt;WCPA&gt;・WCPA 日本委員会への参加および保護地域検討への提言</p> <p>&lt;里やま・湿地保全&gt;・ラムネットの調査研究部会、水田部会への参画・ラムサール条約湿地検討・選定への積極的な提言</p>
	CBD 市民ネットワークでリーダーシップを発揮、COP10 ホスト NGO として責任を果たす	<p>・市民ネットの運営参画・世界市民会議(初心者向けワークショップ+NGO 戦略会議)開催に向けた海外と連絡調整・NGO 戦略会議に対する日本の市民団体への参加支援(プレ会議)・東京事務局コーディネーターの役割を發揮</p>
ふれあい研究	「地域づくりと結びついた生物多様性保全の手法」としてふれあい調査を保護活動の現場で実践、普及を図る	<p>・綾プロジェクト綾町でのふれあい調査とマップづくり</p> <p>・ふれあい調査ハンドブックと綾の事例を活用した持続可能な地域づくりへの普及</p>
	多様性の道プロジェクトの成果をまとめて COP10 で発信し、地域・政策レベルで生物多様性保全促進を図る	<p>・生物多様性、生態系サービスモニタリング情報のデータの公表のためのリーフレット作成・配布</p> <p>・企業と NPO マッチングの実施</p>
保全研究・研究共通	緊急案件にネットワークよく対応し、各事業につなげる	<p>・外部からの依頼ごと対応</p> <p>・想定していない重要な事業の情報収集・芽だし活動</p> <p>・緊急の現地視察、調査要請への対応</p>

## 教育普及事業

2010年度の目標	
①	生物多様性保全における地域の原動力となる自然観察指導員をさらに増やし、指導員の社会的認知向上を目指す。
②	指導員のスキルやセンスをより高め、指導員が活動の意欲や成果を発揮できる機会を増やす。
③	身近な自然の観察機会を広く一般に提供し、生物多様性保全への参加実感の向上を目指す。
④	生物多様性保全における会員の役割や支援のメリットをわかりやすく示し、支援者を増やす。

事業名	事業の目標	事業概要
自然観察指導員養成講習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護問題解決につながるツールとしての講習会の役割を示す。</li> <li>・講習会の内容や開催形態の改良を進める。</li> <li>・定員 85%の受講率。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11 地域で講習会を開催。550 名の新指導員を養成(秋田・千葉・埼玉・東京・神奈川2・新潟・福井・京都・鳥取・大分、共催/連絡会 6 回・行政 3 回・企業 2 回)</li> <li>・受講・共催のメリットを研究、受講者獲得の PR 促進、指導員連絡会・自然系施設等へ受講者募集の協力依頼</li> <li>・講師会議等による講習会の内容・開催形態の改良研究・試行の継続</li> <li>・自主講習会開催地の選定方法ならびに選定基準の検討、自主講習会開催の検討</li> </ul>
自然観察指導員養成フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のプログラムを体系的に整理し、現在求められている新しい研修会プログラムを作り上げる。</li> <li>・NACS-J と各地の指導員との連携体制を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会(既存・新企画)のプログラムの体系化</li> <li>・指導員が抱える現場の自然保護問題の解決につながる新規研修会の内容検討と実施。</li> <li>・指導員フォローアップの体制の見直しと新体制の確立。</li> <li>・各地の指導員のネットワークの強化(連絡会の立ち上げ、連絡会総会やブロック会議の参加による情報提供と活動支援)。</li> <li>・生物多様性実感研修会の実施(愛知県共催/他 2 回)と、研修会の依頼対応。</li> <li>・「全国一斉自然かんさつ会」の実施。会報・Web で成果報告。</li> <li>・指導員 Web ライブラリの製作・運営とメールマガジンの配信による情報提供。</li> </ul>
自然観察指導員養成指導員管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録継続率 90%を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールマガジン配信(月 2 回程度)による情報提供、NACS-J 事業への参加呼びかけ</li> <li>・退会者への再登録の呼びかけダイレクトメール</li> <li>・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険対応</li> </ul>
環境教育一般 自然しらべ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湧水や川などの身近な自然がもたらす生物多様性とそのめぐみを実感する機会を提供する。</li> <li>・各地の会員や指導員に活動の機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 年ごとに実施してきた「川」をテーマに、自然観察の機会を提供し、会員・指導員へ参加を呼びかける。</li> <li>・共催、誌面協賛社ほか各種メディアでの露出機会の獲得。</li> <li>・過去の自然しらべのまとめと「湧き水しらべ」報告の作成。</li> </ul>
環境教育一般 企業・団体対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>NACS-J を支援する意義を伝え、具体的な支援策につなげる。</li> <li>掲載団体が紹介ページを団体パンフとして活用できるガイドブックを発行・配布する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の賛助会員、団体会員を含む、企業・自治体へ、NACS-J が実施・協力できるプログラムの積極的な紹介による参加と支援の呼びかけの実施。</li> <li>・支援メリットの提示による、企業・自治体・市民団体への賛助・団体会員入会の呼びかけの実施。</li> <li>・守り手ガイドブックの発行・配布</li> <li>・守り手ガイドブックの原稿の PDF 化</li> </ul>
P.N.ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地の保護活動・研究を支援し、成果を広く共有・活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種広報活動の強化</li> <li>・報告書の作成</li> <li>・WEB からの情報発信の強化</li> </ul>
教育普及・共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>NACS-J の認知度向上、支援を獲得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの講師・委員の派遣・紹介、告知協力、原稿執筆</li> <li>・小中学校による訪問学習の受け入れコーディネート</li> <li>・主催・外部催事等での寄付パンフ配布</li> </ul>

## 広報・編集事業

2010年度目標
①NACS-Jが関わる現場の一次情報を速やかに会報とウェブサイトで発信し、一般の認知度をあげ、支援協力者の増加に結びつける。
②2010年の機を活かし、生物多様性の意味と価値を社会に浸透させる親しみやすいプログラムを実行する。
③会報の記事を有効活用し、一度の掲載だけで終わらずに一般への普及効果、入会勧誘につなげる企画を試行する。

事業名	事業の目標	事業概要
<b>サポーター拡大プロジェクト</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-Jが目指す自然保護、生物多様性保全を情報発信する。</li> <li>・知名度、認知度向上を目指す。</li> <li>・昨年度実績見込の2倍の入会者獲得。寄付200万獲得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーター(会員・寄付・購買者)状況分析</li> <li>・ツールの制作・活用(パンフレット・募金箱・タペストリー50万・公式パンフレット)</li> <li>・退会者再入会DM・寄付DM</li> <li>・キャンペーン企画実施、企業の寄付企画対応</li> <li>・メディア向けニュースリリース、記事協力、無償広告掲載</li> </ul>
<b>会報発行</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2010年を意識し、自然の見方の新たな発見の提供と、生物多様性を守るライフスタイルへの変革を提案する。</li> <li>・読後満足、新たな活動への励みとなった感想を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画、取材、執筆、編集、会報WG運営</li> <li>・年6回、隔月発行・17000部・カラー32頁+モノクロ12頁</li> <li>・入会・寄付の振替用紙のはさみこみ</li> <li>・「今日から始める自然かんさつ」コーナーとの連動企画(会員・入会希望者向けミニイベント・講座)の試行</li> </ul>
<b>Web運用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-Jのアピール、主要活動を速やかに発信する。</li> <li>・検索されやすいページを増やす。新規コンテンツを掲載し、閲覧者増加に結び付ける。</li> <li>・会員継続のメリットを感じさせる記事を掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動紹介(各部事業)、会報とウェブの連携</li> <li>・ドメイン、SSL、レンタルサーバー等維持</li> <li>・NACS-Jの基本情報更新、各事業更新マネージメント、分析調査、ユーザー管理、追加運用提案等の外注制作+各部制作のデータベースページ等の整合調整</li> <li>・会員専用ページ・ウェブマガジン・動画掲載、動画コンテンツ制作、他サイトとの連携企画展開</li> <li>・2008-2009リニューアルの部分再改良</li> </ul>
<b>暮らしと自然のつながり再発見!</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系サービスが、暮らしや文化を支える基盤的価値である理解を深め、生物多様性の価値を普及する記事を会報とWebで継続掲載する。</li> <li>・2009年度と今年度成果を冊子にし、生物多様性の関心を高め、NACS-Jの存在をアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年度に続き「人の暮らしと自然のかかわり再発見プログラム」の会報誌面+Webサイト制作継続。</li> <li>・身の回りに感じる「自然の恵み」(文化的要素を含む)が、人為的及ばない生態系サービス機能に支えられている事例を収集したレポート、記事、解説文からなる小冊子を制作(和文版・英文版)。</li> <li>・冊子を、レポート送付者、COP10関連イベント、COP10会場で配布、リリース。</li> </ul>
<b>広報・編集共通</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局他部との連携で会員・支援者を獲得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会報⇔Webの連動、執筆者、協力者への入会勧誘協力依頼。</li> <li>・イベントでの会報バックナンバーの配布</li> </ul>

## 事務局運営事業

### 2010年度の目標

- ①公益法人としての事業・会計の公明さが保たれ、会員や寄付者にも大きくアピールできる状態を目指す。
- ②会員や寄付者が支援のしがいを感じ、引き続き一緒に活動しようと思ってくださっている状態を目指す。

事業名	事業の目標	事業概要
事務局運営		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループ会議の開催</li> <li>・考課制度の管理職研修</li> </ul>
法人移行の 基盤整備	公益法人の移行に必要な会計体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益法人の移行に適応できる新・新公益法人会計体制の実施。</li> <li>・会員、会計サーバーの入れ替え。</li> </ul>
会員 DM	協力金を得て、保護活動に役立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;会員向け DM&gt;</li> <li>・2回(1件は新規開拓)</li> <li>・会員に役立つ情報提供になる DM 相手を探す。</li> </ul>
資料・書類管理	重要資料の保存を進める。 個人情報保護について体制をより徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NACS-J 事業計画・報告、予算・決算の冊子をデータ化する。</li> <li>・個人情報保護・具体的な体制・ルールづくりを進める。</li> </ul>
	NACS-J の刊行物を、一般の人が入手できる状況を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;刊行物頒布&gt;</li> <li>・狼森との販売契約の継続。・販売書籍の仕入、在庫管理。</li> </ul>
第 10 回 日本自然保護協会 沼田眞賞	会員の活動支援、会員のつどいの場をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員への PR 強化、特別枠を引き続き設定する(2010 特別枠案: 生物と文化の多様性に貢献した方)</li> <li>・会員のつどいを兼ねて開催。(2011 年 1 月)</li> </ul>